

■CONTENTS■

【特集】卒業生保護者からのメッセージ ～卒業生保護者の体験談に学ぶ～

先輩保護者からのメッセージ ～卒業生保護者の体験談に学ぶ～

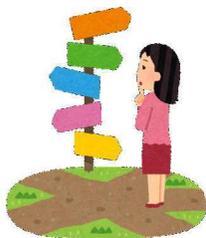
進路日より「わーく&らいふ」では毎年、「卒業生保護者からのメッセージ」と題して特集記事をお届けしています。今年も卒業生26人（一般学級25人、重複障がい学級1人）のご家族からお寄せ頂いたアンケート結果の中から、感慨を込めたメッセージをご紹介します。

本校では、小学生から高校生までが時間と空間を共有し、同じ敷地の中で学んでいます。（来年度から高等部一般学級のみ岱志高等学校内へ移転予定です。）

この時間軸の中で、学習・生活・行事等、さまざまな場面で関わり合うことで、高校生にとっては年長者としての意識、小中学生においては、上学年・学部へのあこがれを生み、子どものキャリア発達に大きな影響を与えるよい環境と言えます。

本校保護者の皆様にとりましても、（ここ3年間はコロナ禍で思うようにはいきませんが）身近な場所に、数年あるいは10年あまり先を歩む先輩（生徒・保護者）たちの姿があることで、「将来必要なこと」に気づき、日頃の子育てのヒントや「今からできること」を知ることができるはずです。

今回の特集には「進路選択に向けたポイント」をはじめ、「これまで効果的だった取組や足りなかった取組」など、後輩保護者の皆様や私たち教職員にとって「今から必要なこと」や「視点」を考えるヒントが盛りだくさんです。学校生活を終えようとしている先輩保護者の今の複雑な「感慨」に思いを馳せながらどうぞお読みください。



質問1 「進路を決めるに当たってのポイントは何ですか？」

◆keyword1 「雰囲気」

・職場の雰囲気（環境）が本人にあっているか。（複数回答）

◆keyword2 「本人に合った仕事(活動)の内容」(多数回答)

- ・毎日楽しくやる気が出る仕事で喜びを感じられそうか。
- ・本人の興味や能力に合った活動。
- ・本人に合った内容・環境に重点を置きました。
- ・本人に合った職業を見つけること

◆keyword3 「本人の意思」(多数回答)

- ・本人の意見を尊重しました。本人のそこで働きたいという気持ちを大事にしました。
- ・親はA型でいいと思っていたが、本人が一般就職を希望したので決めました。
- ・子どもの気持ちを第一に社会人の先輩として参考になることをアドバイスしました。

◆keyword4 「生活スケジュール・通いやすさ」

- ・生活のリズムを変えなくてもいいこと。
- ・通勤のしやすさ。家の近くであること。
- ・仕事内容が本人に合っているかが一番ですが、自転車で行ける範囲（自力通勤ができるところ）を選びました。



【まとめ】進路選択のポイント

Keywordとして最も多かったのは「本人の意思」でした。しかし実は「選ぶこと」「意思」を表すことは、本校の児童生徒にとって大きな課題と言えます。お子様の小さいうちから「選ぶ」経験を繰り返したり、「意思」の表明のやり方を段階を踏んで教えていくことが欠かせません。

その他のKeyword「雰囲気」や「仕事(活動)の内容」「通いやすさ」などは、お子様の一番の理解者である親の見立ても重要です。本校で行う、現場実習（一般学級）施設見学・体験（重複障がい学級）は、その見立てのための判断材料を得る重要な場になります。

学校の実習・見学・体験を通じて「本人の意思を確認」し、「親の目で見た安心感」のある場所を考えていくことが大切です。そのため本校では、ご家族に実習の様子を見学して頂くことをお勧めしています。大切なお子様の将来を託すことになる場です。じっくり見てください。

また、「本人に合った活動(仕事)」を考えるためには、お子様の「好きなこと」「嫌いなこと」「長所」「短所」「努力すればできそうなこと」「どうしても無理なこと」「教えるためのコツ」などを整理しておく必要があります。折に触れ、お子様のことを具体的に書き出してみましょう。

質問2 家庭の取組で「やって良かった。」と思うことは何ですか？

Keyword1 「家事・手伝いをする」(多数回答)

- ・洗濯物干しやたんで片付けること、茶碗洗い等。
- ・毎日手伝いをしてもらって家事が上達した。
- ・将来親がいなくなっても生活できるようにご飯を作ったり、茶碗を洗ったりの家事を夏休み中に集中して行い、それを学校があるときもやれるようになった。
- ・毎日少しですがお手伝いをさせていたことはやってよかったと思います。



Keyword2 「一人で外出・移動をする」(複数回答)

- ・普段外出がとても苦手ですが、どうしても行かなくてはいけない理容室は、高校生になってからは、自分で行く日を決めさせるようにすると比較的スムーズに行くようになりました。
- ・公共交通機関の利用ができるようになってほしいとバスの練習もしましたがなかなか乗ろうとしないのでなぜか聞いてみると、運転手さんとの会話に不安があったようです。そこで、言われるであろう言葉に対して答え方を数個用意して練習したら乗れるようになりました。今では雨のときはバスを利用して通学しているので少し安心しています。



Keyword3「興味のあることからチャレンジしてほめること」(複数回答)

- ・興味がありそうなことをお願いして挑戦させ、少しでもできたら「ありがとう。」と感謝を伝える。一度できたことは次回からは意外とスムーズにできるようになりました。
- ・「ありがとう！すごい！！」とほめちぎりました。

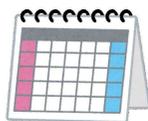
Keyword4 「子どもの話を聞くこと」

- ・すぐに聞けないときにはその理由も話し、時間ができたら親の方から「さっきの話聞かせて。」と言って話してもらっていたら、今でも学校のこと友達のことを話してくれます。そして私なりに大事だと思うことを伝えてきたことをちゃんと体現してくれているのでよかったですと思います



Keyword5 「生活リズムを整える」「スケジュールの確認をする」

- ・健康第一に考えました。
- ・カレンダーを使ってスケジュールの確認をすると見通しが立ち安心するようでした。



Keyword6 「福祉サービスの利用をする」

- ・放課後等デイなどの事業所を数カ所利用し、比較できた点は良かった。
- ・相談員さんをはじめ、いろいろな人に相談させてもらいました。

Keyword7 「できることはする」

- ・できることは大人がやってしまうわずに、本人にさせました。

【まとめ】家庭での取組 ポイントは「長い目」と「習慣化」

Keywordとして最も多かったのは「家事・手伝いをする」ことでした。家庭生活の最大の良さは、同じことを同じ順序で毎日繰り返し取り組めることです。つまり、子どもにとって見通しをもちやすく、繰り返し取り組むことによって身につけやすい場所が家庭です。

しかし、成果が出ずに焦ったり諦めたりすることもあるかも知れません。そのときは次のように考えてみましょう。

★「時間は味方」

1年間で身につけられる行動は1つであっても、12年間で12もの行動が身につくはずと考え、焦らずに長いスパンで考え、よい「習慣」をたくさんつくりましょう。

★「ほめて伸ばす」

お手伝いは、できることが増えるだけでなく、人からほめられる場を増やし、意欲を育むためのよい取組で、人のために行動する(はたらく)ための基礎を育みます。

ほめ方は、お子さんに「ありがとう。」の気持ちがいっしょに伝わるように、発達段階や年齢に合わせた工夫が必要です。先輩保護者のように、ときには大げさに褒めちぎるのもアリだと思います。

質問3 学校の学習・生活を通して身につけたことは何ですか？

Keyword1 「集団生活・協調性」(多数回答)

- ・協調性はできているように感じます。
- ・いろんなお友達、先生とも楽しく生活しているようです。
- ・周りを見て自分から行動を起こすようになりました。
- ・自分はしたくないことでもお友達から励まされたことで一緒に頑張ろうと思う気持ちになれました。
- ・何事にもチャレンジする気持ち。自分ができる範囲でクラスメイトのサポートをすること。
- ・生徒会を通じて自分与えられた仕事に対する責任感が強くなったと思います。
- ・集団でのルールを守ること。遅刻や忘れ物をしないように気をつけているようです。
- ・人との距離感や気持ちの切り替え。



Keyword2 「対人行動」(多数回答)

- ・言葉遣い、ていねいな挨拶
- ・筆談を恥ずかしながらできるようになった。
- ・友達の関わり方で、きちんとやる場面、そうでない場面など相応しい態度を取れるようになった。



Keyword3 「意思表示」

- ・体調不良を報告できるようになった。・自分の意見を言えるようになった。

Keyword4 「集中力」「意欲(やる気)」

- ・学習や作業など集中して取り組めたこと。
- ・学校での本人と家庭での本人は違って、やはり意識がすごく変わったと感じます。

家でも日頃プラスの手伝いを自分からしてくれることが多くなったと感じました。

Keyword5 「ICT機器の活用」

- ・ iPadの活用
- ・ パソコンの授業は楽しいようで説明がよく聞いているようです。簡単なことができたなら仕事にも役立ちそうで良かったです。



【まとめ】学校生活の意義 ～社会へ出るための準備の場～

学校生活は、いろいろな人と「過ごす」「活動する」「はたらく」ことを練習するための大切な場所のひとつで、将来の社会生活への準備期間です。学校の集団生活には、苦手な活動があるばかりでなく、ルールや制約もたくさんあり、子どもにとって心地よいことばかりではありません。しかし、集団生活だからこそ、友人やクラスメイトにより影響を受けて取り組み、課題を解決することができるのも学校です。こうして子どもたちは、将来社会を生きていく上で大切なことを学びます。

質問4 もっと力を入れておけば良かったと思うことは何ですか？

keyword1 「難しいことへの挑戦」

- ・ 発音（の訓練）をもっとしっかりやっておけばよかったと思いました。ことばがちゃんと発せないで意思疎通がうまくいかない、自己主張しようとしても伝わらないとそこで遠慮が出て「じょうだーん」とごまかしたりしていました。わかるまで、わかるように伝えようとするコミュニケーション能力が足りないと感じました。
- ・ できないことも少しずつ、もっと挑戦させたかった。
- ・ あいさつがなかなか身につかなかったのも、もっと小さい頃から習慣づけておけば良かったと思います。
- ・ どうせ無理かと思って諦めていたところがあったのもう少しコミュニケーションをとることを頑張っていたらよかったと思います。



keyword2 生活リズム

- ・ 早寝早起き
- ・ 自分で整えられるよう目覚ましや時計を使うようにすること。

keyword3 趣味・余暇の活動

- ・ 学校・デイ以外での趣味の場をつくること。これからの課題でもあります。

keyword4 「家事」

- ・ 買い物や家電の使い方など、自立につながる家事。

keyword5 「公共交通機関の利用」

- ・ 目的を決めて電車やバスなど公共の乗り物で出かけること。

質問5 その他、後輩へ伝えたいことは何ですか？

keyword1 「あきらめずにいろいろなチャレンジを！」

- ・ 子どもたちにはいろいろなことにチャレンジさせてください。何か光るものが見つかるかも。…、★
- ・ 最初はできないこと、難しいことも焦らず少しずつ挑戦するといつか必ず努力の成果が出ると思うので、あきらめず頑張ってください。

keyword2 「保護者同士の交流を！」

- ・ コロナのせいで保護者の方との交流がありませんでした。今となってはもう少し話があったかったです。
- ・ 保護者同士も仲良くしていただき、ちょっとしたことで相談することができました。
- ・ 荒尾支援学校は、同学年の横のつながりだけでなく他学年との縦のつながりもあり、3年間はコロナ禍で例年より交流が減ったとはいえ、子どもは、たくさんの人と関わることができ、とても楽しい学校生活だったと思います。どこかで子ども見かけたときはどうか声を掛けてあげてください。すごく喜ぶと思います。大変お世話になりました。中学部からの6年間本当にありがとうございました。



その他

- ・ 「わーく&らいふ」がかなり参考になります。卒業してからも見返すことが多いと思います。
- ・ いろいろなことがあるかもしれませんが、楽しい学校生活を送ってください。
- ・ お子さんとたくさん会話をし、気持ちを伝え合ってください。些細なことでも意外に考えの違うことに気づき、新しい発見もあります。
- ・ 12年間毎日楽しく学校に行き、友達もできてよい学校生活が送れました。

編集後記

先輩保護者からのメッセージはいかがでしたでしょうか。実際に進路選択に向けて取り組まれた卒業生保護者の皆様のメッセージには毎年学ぶことが多く、これからの学校教育・家庭教育に活かしていければ幸いです。

さて、後輩に伝えておきたいこととして「保護者同士の交流」があげられたのが印象的でした。社会全体で人とのつながりが希薄になっており、特別支援学校の保護者間も例外ではありません。それは仕方のないことかもしれませんが、以前は気になる親御さんに声を掛けさりげなくサポートされる保護者同士のつながりがあったことを記憶しています。コロナ禍の先にある、WITHコロナの学校生活の中にはきっと、豊かな交流が戻ってくることを願ってやみません。(文責 谷口)